

探究型学習のススメ

関西学院高等部の探究型授業紹介

～ SGH・WWLコンソーシアム拠点校として培った世界市民を育成するための学び ～



関西学院高等部
KWANSEI GAKUIN SENIOR HIGH SCHOOL

高等部長挨拶

関西学院は「スクールモットー“Mastery for Service(奉仕のための練達)”を体現する『世界市民』の育成を目指すこと」をミッションステートメントとして掲げています。その「世界市民」になるために、現代社会においては「答えのない問い」に立ち向かうことを避けては通れません。その不確かな時代、社会に貢献し世界市民として人に寄り添えるようになるためには自ら知り、考え行動できる探究の学びが必要不可欠です。関西学院高等部は「探究型」の授業の深化に取り組んでまいります。

関西学院高等部長 枝川 豊



VOICE

関西学院高等部の探究型授業 こんなことやってます&こんなこと学んでいます

グローバル探究BASIC

上田 篤志 (国語科教諭)

グローバル探究BASICでは、生徒一人ひとりが社会に自らの視点で課題を見出し仮説を立てフィールドワークを通して検証する取り組みを行っています。それらの課題はSDGsの17の目標に還元することができ、実際にその解決に向けて取り組まれている企業やNGO、NPO、地方自治体の方々へのインタビューは、知識の発見だけでなく自らの具体的なアクションを考察する重要な手掛かりとなっています。



小山 元 (2021年度1年生)

世の中が変化する現代において、環境や貧困、格差等様々な問題を自ら主体的に考え、様々な意見を互いに認め合い語り合える仲間たちとの出会い。そこで生まれる気づきから自分にできることは何かを考えることができる。それが、僕自身にとっての当プログラムの魅力です。このプログラムを通じて、これからの社会を創造してゆく一員として、自分にできることは何かを探究する旅をしています!

AI活用

田中 章雅 (数学科教諭)

AI活用では、実際にAIが活用されている現場へのフィールドワークや、AIを活用してビジネスをされている方の講演、またAIに関するプログラミング実習等を通して、社会の様々な課題をAIを活用してどのように解決していくのか、その手法を学ぶ授業を展開しています。各学期末には、自分たちが考えたAI製品やそのアイデアについて、個人やチームでプレゼンテーションを行い、様々な角度からAIを学んでいます。



平山 心 (2021年度3年生)

実際に社会で働く方々の話を聞いて、グループで話し合いをしながら「AI活用人材」になるための知識を得ました。AIの使い方だけでなく、より良い話し合いの方法や、社会で必要とされるITの知識を学びました。私は、教育機会を少しでも増やすことができるような「問題を自動作成するAI」をグループで考えたり、授業の知識を元に、友達と「SDGsについて話し合う」ゲームをIT技術を活用しながら作ったりしています。

ハンズオンラーニング *2022年度より「ピーススタディ」に名称変更

西室 雅央 (英語科教諭)

今年度は2年間かけて「平和」という大きなテーマを「関西学院と戦争」というローカルな視点から考え、KG Peace MapというARを用いてキャンパス内の戦跡を紹介するウォーキングマップを作成しました。ワークショップ開催や数々の発表、ポスターやメディアを用いた広報活動、戦争を経験したOBへのインタビュー等、教室外へどんどん飛び出しています。教科書を超えた学びの面白さと難しさを経験しています。



山本 慈瑛 (2021年度3年生)

この授業を通して「新しいことに挑戦する力」が身につきました。全国高校生フォーラムでの英語プレゼン、KG Peace Map作成での動画やARコンテンツの作成や分厚い歴史書の中からの情報収集等、先生に言われてからするような座学スタイルではなく、自分たちが必要だと感じて動くことを大切にするこの授業だからこそできました。新たな挑戦から学びを得て、大きな成長を実感することもできました。

グローバルスタディ

三木 真也 (社会科教諭)

温暖化をテーマに、1年目の2年生では、考え、「知る」過程を経て「行動する」ことについて学びました。生徒それぞれが教育や行動の必要性、植樹の意味などの問題に気づき、それを小学校への訪問授業や高校生との交流会、動画での普及、実際の植樹と炭素の固定化といった解決策へと発展させました。2年目となる3年生では、その計画をフィリピンの高校生とオンラインでつながり、英語で議論・調整しながら共に創り上げました。



西久保 凜 (2021年度3年生)

地球温暖化の解決に向けて、「私たちにできること」を一から企画し、実践しました。文化祭では、オリジナルエコバッグを製作・販売し、売り上げをフィリピンのNGO団体「LOOB」に寄付しました。また、フィリピンに住む現地の生徒とのスカイプでのディスカッションを重ね、Instagramの共同アカウントを開設しました。国境を越え、言語の壁を越えての探究を展開することができ、国際的な視野を養うことができました。

関西学院高等部の探究型科目プログラム 1

1年次

社会を知る・社会の中の自己を知る

文部科学省
指定

スーパーグローバルハイスクール(SGH)事業

2014
～
2018

WWLコンソーシアム構築支援事業

2019
～
2021

グローバル探究BASIC 年間学習内容

第1フェーズ

SDGsの概念や、17のゴールについて理解を深めます。身近な社会で起こっているSDGsの問題に目を向け、その解決策を見出していく中で、自分たちの生活に結び付けて考えることの大切さを理解します。



第2フェーズ

フィールドスタディを通して地域において様々なSDGsの取り組みをしている団体や人々の生の声を収集します。グループで協働してその現場を訪問することで、社会との接点を作り出す経験を行います。



第3フェーズ

フィールドスタディで経験した「社会を知る・社会の中の自己を知る学び」を発表内容にまとめる過程の中で、社会の一員である自分たちがこれからの社会で起こすべきアクションの方向性について考えを発展させます。



ソーシャル探究 (1年生全体)

ソーシャル探究は、1年生が学年全体で取り組む活動です。3学期の毎週1時間を利用して、様々な社会問題について知識を深め、自分たち自身でその問題についてリサーチし、解決策について発表を行う活動です。学期末には各クラスから選ばれたグループがそれぞれの関心のある社会問題についてパワーポイントなどを用いてプレゼンテーションを行います。



ワークショップの様子



プレゼン発表の様子

探究に特化した授業の3年間の学びのステップ

2年次

関心のある社会的課題を深く掘り下げる

平和を構築するためのAI活用技術を身につける

これからの社会でますますその重要性が増すAIについて学び、実際にAIを利用している企業への訪問等を通して、AIを活用

A-I活用



P Cを用いて創造します
プログラミング演習 / チャットボット作成

企業とつながります
AI活用企業への訪問と講演



クラスメートと協働します
多様なグループワーク・発表

社会に提言します
AI活用アイデアシート作成・発表



現場で学び、社会的課題への当事者意識を育む

教室を出て社会に学ぶことを通じて、「平和」や「人権」という大実際に長崎や私たちの近くにある「沖縄・アウシュビッツ」への訪

ピーススタディ



現地でフィールドワークを行います
21年度：長崎の鎮西学院訪問

ディスカッションを重ねます
マインドマップ作成 / シンキングツールの活用



歴史を探究します
専門家による講義 / 映像・文献学習



自分の言葉で平和を語ります
高校生平和大使との交流

国際的な課題解決のために外国の高校生とつながる

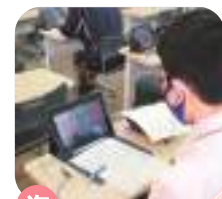
オンラインディスカッションを用いて、外国の高校生と共に身近問題を感じとり、分析・議論し、解決策を企画・実行する中で、

グローバルスタディ

疑問・質問を大切にします
活発な質疑応答・インタビュー調査



SDGsの本質を理解します
SDGsカードゲーム実施・「豊かさ」の理解



海外とつながります
SDGsと関わる世界の人たちとのオンライン交流

世界の課題を自分なりの視点から掘り下げます
ウェビング作成・個人調査・大学図書館での先行研究



3年次

課題解決のためのアクションを起こす

そのAIを活用して様々な課題を解決する技術を学ぶことを目的とした授業です。
その技術を学んでいきます。

AI活用 アドバンスト

西学院大学での 研究から知見を深めます

関西学院大学工学部の先生方・
学生による講演・サポート



多様なアイデアを 大切にします

独創的なAI活用プランの
発表と提言



多角的な視点を多彩な ゲストスピーカーから得ます

NPO、行政、メディア、環境などの
専門家によるAIに関する講演



異 学年から学びます

2・3年生合同授業での
AI活用アイデアの検討



きなテーマに取り組みます。2年生は「長崎・沖縄・アウシュビッツ」をキーワードに「平和を実現する方法」を学びます。
問も予定しています。またプレゼンの仕方、小論文の書き方、「ものの見方」について学びます。

ハンズオンラーニング アドバンスト

モノを作ります

21年度: KG Peace Map



教室の外の社会に 発信します

ワークショップの企画・開催 /
他校での発表



社会的課題を 自分事にします

新聞記事切り抜きワーク /
ポर्टフォリオ作成



考察をさらに深めます

ディベート / 講演を企画・開催

な社会問題の解決に取り組むPBL型授業です。
多様な価値観を越えての協働と探究の学び、そして実践的スキルを深めていきます。

グローバルスタディ アドバンスト

英語で社会問題を 考えます

海外の高校生との英語ディスカッション



活動を振り返り 次に活かします

アクションの反省・
フィードバックの活用

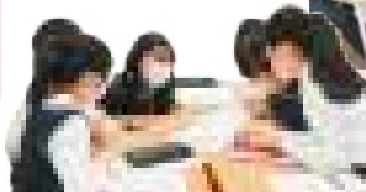


社会課題解決の アクションを起こします

問題の発見・分析と解決策の実践

コミュニケーションを楽しみます

クラスメート・大学生・海外の高校生・
教員・海外交流アドバイザーとの交流



関西学院高等部の探究型科目プログラム 2

様々な科目の探究型授業

■ 探究 × 読書



興味・関心を深める「読書科」の授業

本校で40年以上続く「読書科」の授業。最大の願いは生徒たちが「探究が楽しい」と実感して高等部を卒業し、大学に進学してくれること。探究テーマを生徒一人ひとりが自分の興味・関心に応じて設定し、図書館の豊富な蔵書を用いながら探究していきます。3年次には学びの集大成として一つの論文にまとめ発表します。論文作成の過程で生まれた新たな「問い」を更に探究することで、大学での学部選択や人生を切り開く力につながっていきます。

参加生徒の声

約1年半にわたる、高等部での卒業論文制作を通して学んだことは、自分の内にある疑問をとことん追求できる楽しさです。他の授業では、1つのことを際限なく掘り下げていくことはできませんが、読書科の活動では、文献を調べていくうちに生じる疑問も含め、自由に探究活動を進められました。この授業で学んだことは、大学進学後に様々な探究活動に取り組んでいく際の大きな手助けになると 생각합니다。(3年生 梶浦 恵利さん)

■ 探究 × 理科



生物の「おもしろい」を発見する

なぜ自然科学の研究をするのか。「人や社会の役に立ちたい」というのは立派な動機ですが、その根底は「おもしろい」からに尽きると思います。知られているだけでも約200万種いる生物は38億年の歴史の中で進化し、人の想像をはるかに超える多様さ、巧妙さを見せます。この授業ではまず生物の「おもしろさ」を知ったうえで、興味を持った

生物種、現象について「おもしろい」を原動力に探究し、プレゼンテーション等を通して的確に伝える力を養います。

参加生徒の声

発表に向けて、英語の論文を資料として利用しました。専門用語が難しく苦労しましたが、日本語の資料や調べて得た知識と組み合わせながらなんとか理解できました。その成果を無事に発表できたことはとてもよい経験になり、自信につながりました。発表は生徒間で相互評価もするので、友達の発表の良いところや改善した方が良いところをより多く見つけることができました。友達の発表は想像していたよりもレベルが高く、刺激を受けました。(2年生 林 真緒さん)

■ 探究 × 日本史



①「現在」と「過去」の響き合い

「歴史とは、現在と過去との尽きることのない対話なのです」
(E・H・カー)

過去を手がかりに現在を問い直し、常識や先入観・世間の風潮にとらわれない「クリティカルシンキング(批判的思考)」の力を身につけることを目指します。

②「ローカル」と「グローバル」

身近な地域から歴史を見るローカルな視点と、様々な地域を広く関連づけて歴史を見るグローバルな視点を重視します。

■ 2年生必修選択科目学習報告会 Cross-Curriculum Meeting

2年生必修選択の科目の中で、生徒の発表で横断的に連携する機会を実施。教科を超えて(Cross)自由闊達に学びを共有し、さらなる探究への意欲につながっていくイメージで、Cross-Curriculum Meetingと名づけました。通称クロカリ報告会。Zoomを使用して、各授業の教室から代表生徒が学習した内容の発表を行います。発表を聞く生徒には、フィードバックシートを用いて、生徒同士で評価し合うことで今後のプレゼンテーション能力の向上に努めました。

参加生徒の声

Cross-Curriculum Meetingに参加してみて、他の選択科目が行っている活動や学習していることについて知ることができて勉強になりました。このCross-Curriculum Meetingで共有したことを自分たちが取り組んでいる選択授業などの探究活動に活かしていきたいです。(2年生 大西 輝くん)



関西学院高等部の探究型科目プログラム 3

様々なイベントの開催

International Online Meeting

拠点校である本校と連携校の有志生徒で構成された実行委員会が企画運営にあたり、インドネシア、フィリピン、インド、エジプトなどの高校生とともに3回にわたるオンライン国際会議を実施しました。300人程の高校生たちが参加したこのイベントでは、First「コロナとともに生きる私たち」、Second「各国にとっての平和、あなたにとっての平和」をテーマに語り合い、Finalではこれまでの探究的学びの成果を通して、SDGs実現のために自分たちにできることを宣言として共有しました。英語でのプレゼンテーションやディスカッション以上に、テーマ設定からプログラムの企画や広報、そして実際の進行に携わった経験は、実行委員を大きく成長させました。



生徒実行委員の声

大きなイベントを企画・運営するのは、私にとってInternational Online Meetingが初めての経験でした。本番で予定通りにいかず悔しかった事もたくさんありますが、友達や先生方と毎日のように話し合ったことは大切な思い出になりましたし、何より自分自身をとても成長させてくれたと思います。3年間で一番大変なイベントでしたが、とてもいい経験になりました。(3年生 久保田 優さん)

海外参加生徒の声



インドネシア

Such a fun and educational event, hopefully this event will always be able to provide education for many students in the world^_^/

海外参加生徒の声



フィリピン

I get to meet tons of other people from different countries and I also got to experience such event with all of them, and I get to share the information I gathered with all of them.

SDGsオンラインミーティングWWL生徒交流会

自分たちがSDGsの解決の主体としてこれから何ができるのかについて、多くの他校の高校生と一緒に考え、互いに学びを得ることを目的としたプログラム。拠点校である本校と、連携校からの有志生徒で構成された実行委員会を結成し、講師の選定、交渉や企画の詳細に関する立案、広報用のチラシ作成などの準備だけでなく、当日の進行についても、生徒たちがイベントを受け身で参加するのではなく、自分たちのイベントとして責任を持って運営しました。



招聘したゲスト講師

2020年度 田瀬 和夫 氏 (SDGパートナーズ有限会社 代表取締役CEO)
岸 博幸 氏 (慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科 教授)

2021年度 新垣 修 氏 (国際基督教大学教授)
枝廣 淳子 氏 (大学院大学至善館教授/幸せ経済社会研究所所長)

生徒実行委員の声

生徒交流会実行委員として活動し、ほぼ全ての企画・運営を生徒で行う中で、同じ実行委員の頑張りにより多くの刺激を受けました。また、発表や講演を通して、私たちと同じ思いを持った高校生にできることの大きさを改めて実感することができました。(2年生 神尾 妃夏子さん)

参加生徒の声

この交流会を通して、私たちの意識を変えない限り、SDGsの課題は何も変わらないと気づきました。グループで協力して発表を終えられたことは貴重な経験となりましたが、他のグループの発表内容や方法に刺激を受け、もっと自分も頑張ろうと思いました。(2年生 波々伯部 琴理さん)

教員も探究しています

WWL教員交流会

生徒のみならず、教員も探究活動をしています。「探究活動って何なんだろう?」という大きな問いについて、20校を超える高校から教員が集まってオンラインで研修会を開催しています。大学教員のファンリテートによる小グループでのディスカッションや講演、各校の教員による探究授業の取り組みの発表やケーススタディ、意見交換等を通して、教員も学びを深めています。このような取り組みを通じて、学校を超えた教員のつながりが広がっています。生徒の皆さんと一緒に、教員も正解のない問いについて考えていきたいと思っています。



関西学院高等部の探究型科目プログラム 4

関西学院大学との高大連携プログラム

AI活用ワークショップ

関西学院大学においてAI活用人材育成プログラムを受講している大学生と、WWLC拠点校・連携校の高校生が参加し、AIを活用した課題解決のアイデアや開発したアプリケーションについて情報を共有しディスカッションするプログラムです。学生・生徒がチームを編成し、それぞれの得意分野や知識を活かし、チームで一つの企画をまとめ、発表とディスカッションを通して、さらなるブラッシュアップにつながりました。



WWL・SGH × 探究甲子園



2019年度まで実施してきたSGH甲子園を発展させて、より世界に広がる学びを意識。地球課題のSDGs(持続可能な開発目標)について深い探究活動を展開することに重点が置かれています。2021年度は昨年度から引き続きオンラインで全国各地から集結した高校生たちと切磋琢磨しながら、口頭やポスターでの発表、グループディスカッション等を行い、問題解決能力やプレゼンテーション能力の向上を図ります。

参加生徒の声

私たちは2年生の4月から地球温暖化について様々な角度から探究し、その中で疑問を抱いた「日本の教育」をテーマにプレゼンテーションを行いました。当日は全国からたくさんの生徒が参加し、意見交換をしたり私たちの発表へフィードバックをいただきその後の活動の活力となりました。また同世代の方の探究発表や活動について知ることができ良い刺激を受けました。(3年生 大篠 仁呼さん 2020年度探究活動プレゼンテーションに参加)

文部科学省主催のプログラム

全国高校生フォーラム



文部科学省が実施しているスーパーグローバルハイスクール(SGH)事業及びWWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業に取り組んでいる高校生がオンラインにより一堂に会し、日頃取り組んでいるグローバルな社会課題の解決や提案等を話し合うとともに、英語でのポスター発表を通して発信します。参加校の高校生は、事前に英語でのポスター及び映像によるプレゼンテーション動画を作成し提出します。提出されたデータにより、審査委員が事前審査を行い、選出された最優秀校(1校)には、文部科学大臣賞が授与されます。

関西学院高等部では、建学の精神

"Mastery for Service" (奉仕のための練達)

を实践する「世界市民」を目指します。